

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づいて「自主・自律」「己を鍛え己を磨き、ともに切磋琢磨」「己を大切に、他を思いやる」人材を育成する。
- 1 夢を叶える学校として・・・将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送れる学校
 - 2 才能を磨く学校として・・・普通科専門コース制の学校として、各コースの特色を生かし、自己の興味関心を発展させて、得意技として磨きをかける学校
 - 3 社会そして世界へ繋がる学校として・・・社会人として必要なコミュニケーション力や語学力を身につけ、国際社会に通用する人材を育成する学校

2 中期的目標

- 1 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善の取り組み
 - (1) 確かな学力の育成（基礎学力の定着、発展的学力の育成）
 - ア 次期学習指導要領を踏まえ、高大接続改革を見越し、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生・社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の滋養を行うための取り組みをする。
 - イ 生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させるために、一斉講義形式の授業から脱却し、双方向性に富む授業を行う。
 - ウ 学力の定着を図るために授業外学習習慣の重要性を理解させる。その為に質・量・教科バランスを考慮し宿題を課し、学習の振り返りを行う。
 - (2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。
 - ア 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践（指導）・評価・改善という一連の活動を繰り返すことにより授業改善を行う。
 - イ 様々な教科で「主体的・対話的で深い学び」を実践する。
 - ウ 授業改善のため、研究授業や研修を積極的に行い、その成果を教職員共有のものとして、教育活動に生かす。
 - エ ICT 機器や視聴覚機器を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導内容・指導方法の工夫に努める。
 - (3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成。
 - ア 教科授業に加えて総合的な学習の時間、学校行事を活用して、社会の加速度的な変化に対応するため、国際的な視野を育み、問題発見・解決能力、論理的思考力、探求力、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。
 - イ 教科のみならず、コースや学年単位で、他とコミュニケーションする力、プレゼンテーション力を育成する。
 - ウ 国際共通語としての中心的な役割を果たしている英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成する。

※2020年までに、学校教育自己診断「宿題や課題がよく出される」が平成29年度、前年度66%から64%に連続下降。目標値を65%（2020年度）に、同様に「予習や復習を欠かせない」を（平成29年度28%）30%（2020年度）にする。
- 2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する
 - (1) 進学実績の向上
 - ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようにする。
 - イ 土曜講習だけでなく、「進学特別ルーム」及び「アドバンス学習室」を自習室・大講義室として開放する。
 - ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。
 - エ 「アドバンス学習室」（平成27年度学校経営推進費事業により）を活用し講義・講習等の学習環境の充実を図る。

※難関8私大（関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学・京都産業大学・近畿大学・甲南大学・龍谷大学）・中堅私大（大阪経済大学・関西外国語大学・京都外国語大学・神戸学院大学・阪南大学・摂南大学・追手門学院大学・大阪産業大学・京都女子大学・仏教大学）の延べ合格者数（平成29年度生237名 3月現在）を30年度も230名台を維持する。
 - (2) キャリアデザインの推進
 - ア 自分の人生を将来から見つめ、自分の生き方や進路について考えさせる「キャリアデザイン」を総合的な学習の時間とLHR等を活用して推進する。
 - イ 入学から卒業までの段階を踏んだプログラムに基づき、進路先の更にある職業意識を育む。

※学校教育自己診断における進路情報に関する肯定率（平成29年度68%）を2020年度に70%にする。
- 3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成
 - (1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。
 - ア 遅刻指導を徹底し、生活リズムの確立を支援する。
 - イ 毎日の登下校時及び毎時間の開始・終了時の挨拶の励行。
 - ウ 日常から言葉遣いの指導を徹底し、正しい言葉遣いへの意識向上を図る。

※遅刻平均総数（平成29年度2446回）を前年度より3%～5%下げる。
 - (2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。
 - ア クラブ活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。
 - イ 豊島高校展（作品展）の開催場所を本校で継続し、生徒の学習の成果やクラブの発表の機会とする。
 - ウ 日常の清掃とは別に部活動を中心とした清掃活動を継続実施し、校内の特定地域を集中清掃や校外の地域清掃を行う。
 - エ 生徒会活動や学校行事の活性化をはかり、生徒が主体的に運営する機会を増やす。
 - オ 国際交流を深め、文化や習慣の違いを尊重する精神等を育み、海外の学校との連携を強化する。
 - カ 3年間を見通した人権教育の指導計画を基に、豊かな心を育む教育を推進する。
 - キ 普通科専門コース制設置に伴い、各コースの特徴となる行事を取り入れながら、専門的な教育内容を実践し、進路実現を図る。

※学校教育自己診断の学校行事における肯定率が平成29年度、前年度53%から51%に下降。3年後の目標値を53%にする。
※全学年の部活動加入率が平成29年度、前年度70%から68%に更に下降。2020年度目標値を70%にする。
- 4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり。
 - (1) 「分掌部会」の開催等
 - ア 分掌内での連携・調整を強化する。迅速な課題解決に向け、校内組織を固める。
 - イ 経営会議・運営委員会等既存組織が課題解決の中心としての機能を持つ。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○満足度「本校への入学満足度」：保護者肯定率 90%（前年 89%←前々年 89%）に上昇したが、生徒肯定率が 70%（←71%←73%）と僅かだが下がった。結果として生徒の満足度が 4 年連続下降となった。3 年生が 65%と伸びなかった。天候不順のため体育祭が完全実施できず、最終学年として「やり残し感」が原因の 1 つになっているかも知れない。</p> <p>「学校に行くのが楽しい」：保護者肯定率 82%（←84%←81%）はほぼ昨年と横ばいだったが、生徒肯定率は 67%（←72%←71%）となり、「学校が好きで、行くのが楽しい」と思えない生徒が 3 割以上いる。「学校行事や生徒の活動が活発な学校である」が 56%（←51%）とようやく下げ止まったので、行事以外の原因を見極めなければならない。</p> <p>○学力向上「入学後自分は成長したと思う」：73%（74%）とやや下がった。1 年生 72%（69%）に上昇。「他の学校にない特色がある」54%（63%）と 3 年間のアンケートで最低の結果となった。全学年「普通科専門コース制」になり、普通科におよそ 7 割の生徒がいる中での質問であると考ええると、質問自体を変えなければいけないかも知れない。「(授業（実習や演習含む）、ビデオやコンピュータを使ったものが多い」：72%←51%、1 年生が 84%と前年の 61%を大きく上回った。実習等でも指示をパワーポイントで提示するなど、ICT 機器の利用は確実に広がっていると判断する。</p> <p>○進路・行事・部活動「進路についての情報をよく知らせてくれる」：生徒肯定率 75%（←68%←63%）に上昇、保護者肯定率 54%（←54%←46%）と僅かに下降した。「クラブ活動が活発な学校である」：生徒 71%（←77%←81%←85%）と普通科コース制への改編後、下降が続いている。「部活動をするために」本校を選んだ層が、明らか減ってきている。この事は保護者の肯定率にも表れている。80%（84%←83%←84%）は。「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」：生徒 77%（←73%←62%）に上昇、保護者 58%（←54%←50%←64%）に若干上昇した。3 年生が生徒保護者とも高評価になった原因は就職差別問題など 3 年の取組み内容によるものと思われる。</p>	<p>○第一回（平成 30 年 6 月 26 日実施） 平成 30 年度学校経営計画及び学校評価について協議、承認された。委員からの主な意見は次の通り。 部活動と豊島高校がめざすコミュニケーション力の育成とは関係性があるので、部活動も頑張って指導していただきたい。学校経営計画及び評価や数値目標を教員の誰に聞いても答えることが出来るレベルまで周知徹底する必要がある。以下の項目の目標としている数値は注意が必要（必ずしも数値が上がれば良いというものではない）▶部活動の加入率：低い理由は生徒が塾などの授業以外の習い事にコミットをしている可能性がある。▶宿題・課題が多く出される：主観的な数値である。▶仕事の効率化を上げるには「やめる」という決断も必要。1 つ新しい事を始めるなら今までやって来た事を 2 つ「やめる」つもりで選択と集中を行う必要がある。 ▶ノートづくりをどう取り組ませるか、講義形式の授業でもアクティブラーニングは可能である。 授業相互参観時に「良い点」を書いて掲示する方法もある。「主体的・対話的で深い学び」は色々な授業の中で実施すべきである。</p> <p>○第二回（平成 30 年 10 月 17 日実施） 平成 30 年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況について協議した。委員からの主な意見は次の通り。 宿題が多いと言っても、その事が良いとは限らない。学生の主観・意識に影響されやすい。教育計画・目標を立て、自己評価し、学校運営協議会に提示する。PREP 法に則り、結論 (Point)、理由・根拠 (Reason)、具体例 (Example)、再度結論 (Point) の順で組み立てる。具体的なエビデンスを盛り込み、それを踏まえて書けば、分かりやすい。第 1 回授業アンケートについて：アンケート結果の解釈は慎重に行い、結果をフィードバックする際は先生方のモチベーションが下がらないように伝える事も大事。先生の方も、こういう事かと思って改善して行くというのが理想的。生徒に対しても、どういう目的かという指示 (インストラクション) をしっかり行う。先生方にフィードバックする時も、こういう風に対処してくださいと丁寧に説明して返却する。もう少し頑張りたい、この部分は誇りに思っている等、メッセージを発信しても良いと思う。 教科書採択結果について：結果の共有を他教科も含めてするのも、文章の書き方など勉強になるのではないか。</p> <p>○第三回（平成 31 年 1 月 18 日実施） 平成 30 年度学校経営計画及び学校評価の達成状況について協議した。委員からの主な意見は次の通り。 今回、各数値が上がったのは、アンケートの質問項目の見直しと教員の努力の双方によるのではないか。 コミュニケーション力、プレゼンテーション力は「身に付いた」という尋ね方ではなく、「向上した/上達した」という表現にすべきではないか。定義も個々により異なるので、何を「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」とするかをアンケート実施する前に丁寧に説明すべきであろう。遅刻件数は時期で増えたのか減ったのか、特定の個人による数字なのか、実人数はどうかなど、単純に総数では見られないのではないか。次年度は原因究明を分析するなど項目に入れていただきたい。学校教育自己診断の「人権項目」が学年進行につれて上がっているのは、生徒が学校の指導を素直に捉えているという表れであり、豊島の優れているところである。 学校教育自己診断（生徒）：授業外学習時間のグラフの「学校以外学習時間ゼロ」の層が 4 割いるのに、「宿題が良く出される」項目で伸びがあるのは矛盾を感じる。授業アンケートの教科平均値は、分散・標準偏差・相関値も見ると解決の糸口が見えてくる。統計のできる教員で分析すると見えてくるものもある。教員のアンケート・保護者アンケート結果と生徒結果が一致していない。教員の多忙な実態もあるが、教員の指導力が学校を大きく変える。アンケート結果の高い教員の授業を見学するなど、頑張っておられる努力が生徒のアンケート結果に結びつくようなことも考えるべきである。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善の取り組み	<p>(1) 確かな学力の育成(基礎学力の定着、発展的学力の育成)</p> <p>ア 次期学習指導要領・高大接続改革を踏まえ、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の滋養を行うための取り組みをする。</p> <p>イ 生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させるために、一斉講義形式の授業から脱却し、双方向性に富む授業を行う。</p> <p>ウ 学力の定着を図るために授業外学習習慣の重要性を理解させる。その為に質・量・教科バランスを考慮し宿題を課し、学習の振り返りを行う。</p> <p>(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。</p> <p>エ 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践(指導)・評価・改善という一連の活動を繰り返し授業改善を行う。</p> <p>オ 様々な教科で「主体的・対話的で深い学び」を実践する。</p> <p>カ 授業改善のため、研究授業や研修を積極的に行い、その成果を教職員共有のものとして、教育活動に生かす。</p> <p>キ ICT 機器や視聴覚機器を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導内容・指導方法の工夫に努める。</p> <p>(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成。</p> <p>ク コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。</p> <p>ケ 英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく育成する。</p>	<p>ア、イ 一方的な講義形式の授業から脱却し、短時間でも、発問に工夫しながら生徒同士意見交換する等、自分で考え、理解を深める時間をつくる。授業開始時と終了前に「目当て」(何を学ぶか)の説明と、「まとめ」を行い、学習内容を生徒が俯瞰できるようにする。</p> <p>ウ 授業外学習に取り組むよう、教科の宿題のみならず、プリント等による授業の予習・復習を習慣化させ学力向上につなげる。</p> <p>エ、オ 各科目で「主体的・対話的で深い学び」を実践する。</p> <p>カ 相互授業参観を教科の範囲を超えて一層組織的に行う。</p> <p>キ 教科を限らず、できる教科から ICT 機器を利用する授業を充実させる。</p> <p>ク 教科、学年、総合的な学習の時間等を活用し、プレゼンテーションをする機会を多く設ける。</p> <p>ケ スピーキングテスト導入に備え、教育課程、実施体制等校内の体制を整える。</p>	<p>ア、イ 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では当てられたり、求められたりすることが多い。」の肯定率を60%に、(平成29年60%)、「本校の授業では、調べ学習や生徒の発表による内容も多い。」の肯定率を53%(平成29年51%)にする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断の「本校の授業では、宿題や課題がよく出される。」の肯定率を65%(平成29年63%)にする。</p> <p>エ、オ 授業アンケート結果における授業満足度85%維持。(平成29年度85%)</p> <p>カ 同上</p> <p>キ 学校教育自己診断の「本校の授業では、実習や演習、ビデオやコンピュータを使ったものが多い。」53%(平成29年51%)</p> <p>ク 普総選アンケートが改編により実施不可となるので、新たに学校教育自己診断でコミュニケーション力、プレゼンテーション力の項目を作り、結果を残す。コミュカ70%、プレゼンテーション力61%(平成29年コミュニケーション力74%、プレゼンテーション力61%)</p>	<p>ア 目標設定面談において、授業時に「目当て」「まとめ」を生徒に伝えるよう依頼し、授業見学時に確認。50分の流れの中で、「目標」は殆どの科目でできているが、「まとめ」は時間の関係で必ずしも振り返りができていない。</p> <p>学校教育自己診断：81%に上昇(◎)</p> <p>イ 若年層の教員を中心に双方向性に富む授業の実践ができている、又はやろうとしている。調査範囲を一定決まった期間で終了させるという時間的な制約はあるものの、昨年より実施率の上昇を裏付ける結果となった。引き続き授業改善に取り組みたい。</p> <p>学校教育自己診断：74%に上昇(◎)</p> <p>ウ 多くの科目(実技科目は除く)で、量の差はあるが授業外学習に取り組むべき課題を与えている。今年度、質問の主旨を正確に伝えるために質問項目に「実技科目を除く」と明記。また、予習をしなければ授業について来る事ができない科目は限られているので、現れた数字の大部分は復習を求めているものと解釈する。数値結果は、向上が見られ、昨年より多くの科目がプリント等による授業外学習に取り組んでいる事が裏付けられた。学校教育自己診断：80%に上昇(◎)</p> <p>エ、オ 授業アンケートの結果からは全科目の全体的な平均しか捉えることが出来ないが、授業改善が進むと、生徒を引きつける授業に発展するので、満足度は高いと推察する。</p> <p>第2回授業アンケート：86%(○)</p> <p>キ 視聴覚教材、実習時の簡単な指示、教科書本文の提示等プロジェクターを使用する頻度は高い。</p> <p>学校教育自己診断：74%に上昇(◎)</p> <p>ク 普通科総合選択制時に卒業前の3年生に実施していたアンケートが普通科コース制への改編に伴い実施できなくなった。今回、学校教育自己診断にその項目を新たに追加し、実施した。</p> <p>コミュニケーション力 63%(△)</p> <p>プレゼンテーション力 52%(△)</p> <p>これまでの経緯から3年生のみの数値としたが、大学への受験対応のため、生徒にプレゼンテーションをさせる取り組みが時間的に厳しかったと分析する。学校運営協議会委員の方々から、質問の仕方を「…身に付いたか」と完了形ではなく、「…向上しているか」という表現を用いる方が、実態に即した数値が得られるだろうと指摘を受けた。</p>

府立豊島高等学校

<p>2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する。</p>	<p>(1) 進学実績の向上 ア 難関私立大、中堅私立大への合格ができる学力をつける。 イ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。 (2) キャリアデザインの推進 ウ 自分の人生・生き方・進路について考える「キャリアデザイン」を推進する。 エ 入学から卒業までの段階を踏んだプログラムに基づき、進路先の更に先にある職業意識を育む。</p>	<p>ア、イ 勉強合宿を実施し、参加について保護者にて早い時期から知らせる。 ・全学年を対象とする大学見学ツアーを夏季に2回実施し、早い段階から大学への進学意識を醸成する。 ・進学特別ルーム、アドバンス学習室を講習・講演、自習に活用する。</p> <p>ウ、エ キャリアデザイン (CD) の時間で、将来の自分を設計するキャリア教育の充実を図る。地域の人材や各界で活躍する人の講演を実施し、職業意識の醸成を図る。保護者にも情報提供を綿密に行う。</p>	<p>ア、イ 参加人数を施設の許容人数限界まで増やす。 ・難関私立大学8校をはじめ、大学見学バスツアーを2回実施し、生徒の進学意識を高める。実施後アンケートを行い、意識変化を見る。</p> <p>ウ 学校教育自己診断での「将来の生き方について考える機会がある」の肯定感80%を(平成29年度80%)維持する。</p>	<p>ア・イ・生徒の感想より、「勉強合宿」の満足度は高く、実施効果の大きな取り組みに成長できている。(◎) ・台風の影響で、1回目の甲南大・神戸学院大は保護者のみの参加となった。アンケートは2回目(龍谷大・京都産業大)実施時に行ったが、満足度ほぼ100%だった。生徒側から、次年度も継続するよう依頼される取り組みになった。(◎) ウ 「将来の生き方について考える機会がある」の肯定感84%に上昇。キャリアデザインの授業で様々な取り組みを行い、自分の将来についてしっかり深めることが出来ている。(○)</p>
<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行 ア 遅刻指導の徹底 (2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主自立の醸成、地域社会との繋がりを、国際間感覚を身につける。 イ クラブ活動充実のための取り組み ウ 生徒会活動や学校行事活性化に向けての取り組み エ 国際交流の継続。海外の学校との連携を強化。 オ 人権を尊重する取り組み</p>	<p>ア・遅刻の多い生徒については、早朝登校や個別指導を徹底し、改善をはかる。</p> <p>イ・新1年生を対象とするクラブオリエンテーションの継続。全員に部活動の魅力を実感させ、入部率の向上を図る。 ウ・豊中市、箕面市等地域社会と連携して地域行事や小中学生のイベントを始め様々な行事にクラブ生徒や生徒会を派遣し、地域に貢献する豊島高校をアピールする。 ・生徒会が中心となった中学生向け学校見学会の参画や体育祭・学園祭の運営を通じて、学校への誇りと生徒の自主自律の精神を育てる。 エ・韓国慶南女子高校、南山高校、オーストラリア Modbury High School との交流を継続し、国際感覚の醸成につとめる。 オ・生徒の個性を大切にし、お互いの多様性を尊重して、いじめのない学校をめざす。</p>	<p>ア 遅刻総数前年度比3%～5%減する。</p> <p>ウ バasketボール・バレーボールの「豊島カップ」の継続、部活動の地域事業への参加回数年間30回以上維持する。</p> <p>エ 海外の学校との国際交流を継続発展させる。</p> <p>オ 安全安心アンケートのいじめ件数2件以内。</p>	<p>ア・11月集計(3個学年合計)1,752件。前年同期で1,653件であるので、約6%増になっている。毎朝30分正門に立ち、時間ぎりぎり登校する生徒への声掛け、始業式・終業式での講話で遅刻について触れているにもかかわらず減らすことが出来ていない。厳罰主義に向かうことなく、生徒の意識を改革するような方策を継続して模索する。(△)</p> <p>ウ 部活動生徒による近隣地域の清掃活動は今年度も継続実施済。台風等による影響等で本来、校外で実施できていたものを生徒の安全確保のため校内に振り替えたが実施回数は33回。(○)</p> <p>エ 韓国交流校2校とは、現在の日韓関係下においても無事終了。日程の関係で2週間連続となったが、草の根の交流が出来た。オーストラリア姉妹校とは、長期留学制度もスタートさせ、発展させた。(◎) オ 残念ながら2件、いじめと判断できる事案が生起。いじめ対策委員会を開催し、対応している。2件以内なので(○)。</p>

府立豊島高等学校

<p>4 学校全体の課題を共有し、解決に向けての組織づくり</p>	<p>(1)「分掌部会」の開催等 ア 分掌内での連携・調整を強化する。迅速な課題解決に向け、校内組織を固める。 イ 経営会議・運営委員会等既存組織が課題解決の中心としての機能を持つ。</p>	<p>ア・時間割の中で「分掌会」の開催できることを保証し、分掌内で課題解決のスピードアップを図る。 文化祭の開会式の充実をする。 イ・専門コース制への改編の完成期を迎え、現行の教育課程を始め新教育課程の検討等グランドスケジュールを決定し、遅延なく動く。</p>	<p>ア 普総選が終了し、各分掌の会議が時間割的に保証できるかを指標とする。特に文化祭開会式の充実を評価指標とする。 イ 選択科目の見直しができるかを指標とする。</p>	<p>ア 新教育課程編成のため、各教科の「教科会」を時間割的に保障した関係で、「分掌会」は技術的に組み入れる事はできず、放課後に設定した。学校教育自己診断で満足度が下がっていた体育祭・文化祭等学校行事に対する満足度について、51%→57%に上昇させることができた。理由は生徒会と連携し、従来の開会式を生徒がアピールする場に大きく変更した事と、予餞会の導入に踏み切り、活性化させる事に成功した事が考えられる。(○) イ 日本史・世界史のB科目の代替として開講していた日本史Ⅰ・世界史Ⅰを次年度より削除。(○)</p>
---------------------------------------	--	---	--	---